

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (①地域の自然環境や教育資源を活用した事業)

東予地区体験活動地域プラットフォーム形成支援事業

愛媛県

【事業のポイント】(東予)

- 地域の自然体験を生かした体験活動の実施
- 学校関係者、行政関係者、地域で活動する青少年教育関係団体等との連携による実施
- 地域の大人や異年齢の者等との交流を重視した体験活動の実施



無人島(平市島)にて

1. 企画

(1) 事業実施の背景

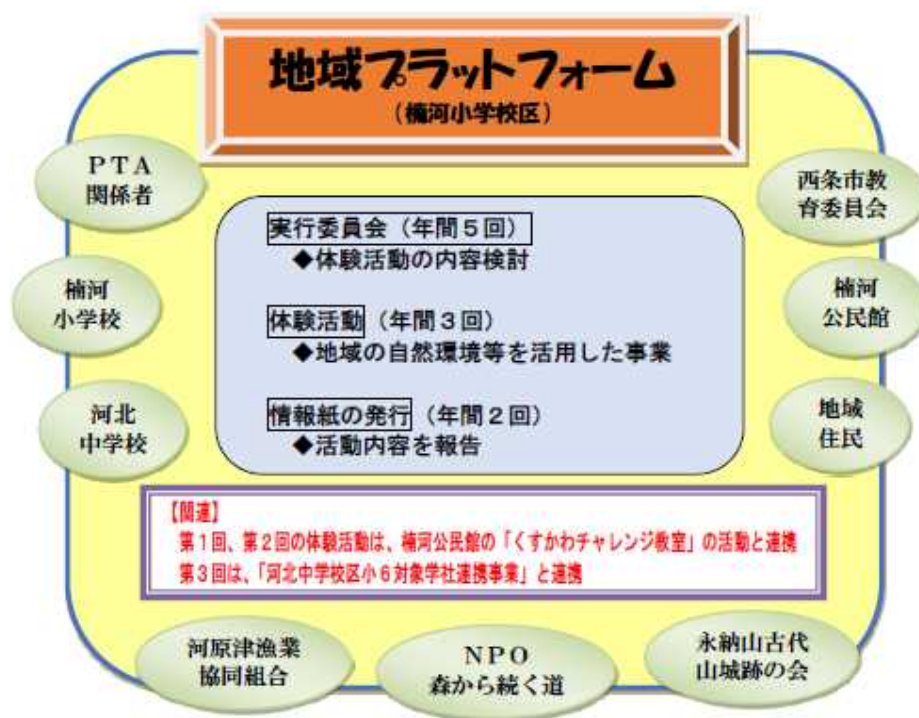
子どもたちが地域社会を構成する一員であることを自覚し、地域を愛し、地域をよりよくしていこうとする主体者となるような体制づくりが必要である。このことから、様々な団体をネットワーク化した実行委員会を組織し、地域の教育資源を生かした体験活動を実施する。西条市楠河地区は、海や山の豊かな自然に恵まれ、また、国指定史跡も存在する。それら地域の教育資源を活かした体験活動をとおして、子どもたちが地域の大人や異年齢の者等と豊かに交流し、地域全体で地域の子どもたちをよりよく育成しようとする体制構築に努めることとした。

(2) ねらい

地域を基盤として、公民館、学校、青少年教育団体、NPO等をネットワーク化することにより、様々な体験活動を円滑に実施できる「地域プラットフォーム」を形成し、地域での持続可能な体験活動の推進の仕組みをつくとともに、地域の自然や歴史をより深く理解し、地域に愛着をもつ子どもを育てる。

2. 実施概要

(1) 地域プラットフォームの構成



(2) 具体的な取組の概要

体験活動①「ドキドキ無人島探検」

ア 日時 平成29年7月30日(日) 9:00～14:00

イ 場所 平市島

ウ 参加者 37名(楠河小学校児童及び保護者、地域住民等)

エ ねらい 地域の海岸から見える無人島「平市島」での活動を通して、自然に親しませるとともに、異年齢交流や非常食体験等を行う。

オ 活動の様子



無人島へ出発



島に上陸



島を探検



採れたものの仕分け



防災食で昼食



海を満喫

【児童の感想】

- いっぱい泳いで楽しかった。
- はじめ海から飛び込むのは怖かったけど、やってみたら気持ちよかった。
- (採れたてのエビが) おいしかった。

体験活動②「わくわく干潟探検」

ア 日時 平成29年8月22日(火) 14:30～18:00

イ 場所 河原津海岸

ウ 参加者 32名(楠河小学校児童及び保護者、河北中学校生徒、地域住民等)

エ ねらい 地域にある干潟で生き物を見つける活動を通して、自然の広さや干潟の生物の豊かさを感じるとともに、地域の自然を守り育てようとする心情を育む。

オ 活動の様子



開会行事



探検に出発



発見



見つけたものを確認



何と、カブトガニが！



「こんなの、いたいた」

【児童、生徒の感想】

- カブトガニを見つけられて、びっくりした。
- 魚をつかまえたかったけど、すごく速かったからつかまえられなかった。
- 気持ち悪い生き物がいた。

体験活動③「ウキウキ史跡探検」

ア 日時 平成30年2月17日(土)

イ 場所 永納山、楠河公民館

ウ 参加者 86名(楠河小学校、庄内小学校、三芳小学校、地域住民等)

エ ねらい 地域にある国指定史跡「永納山城跡」での登山や植樹の活動を通して、歴史や自然を感じ、郷土を愛し後世に残し伝えていこうという心情を育むとともに、河北中学校区3校の小学6年生の交流を図る。

オ 活動の様子



開会式



自然の話



史跡観察



絶景!



植樹作業



交流活動

【児童の感想】

- 植物の話や永納山のことなどおもしろかった。
- 今日植樹した木が、どんどん育ってほしい。
- 植樹の話を聞いて、自然を大切にしようと思った。
- いっしょに永納山に登ったり遊んだりして、仲よくなれたし、楽しかった。

(3)実績スケジュール

月 日	内 容
6月16日	第1回実行委員会
7月12日	第2回実行委員会
7月30日	体験活動①「ドキドキ無人島探検」
8月9日	第3回実行委員会
8月22日	体験活動②「わくわく干潟探検」
9月1日	情報誌(No.1)の発行(体験活動①②の報告)
1月19日	第4回実行委員会
2月17日	体験活動③「ウキウキ史跡探検」
2月17日	第5回実行委員会
3月1日	情報誌(No.2)の発行(体験活動③の報告)

3. 成果と課題

(1) 成果

- 公民館を拠点に、NPO団体も含め地域の様々な団体の協力を得て、プラットフォームを形成することができた。
- 地域の自然資源を通して、子どもも大人も学習し、貴重な体験をすることができた。
- 実行委員が、それぞれの立場や得意分野を生かして、各事業で活躍する機会があった。
- 体験活動①では、西条市から防災食の提供があり、昼食も兼ね防災食体験ができた。
- 体験活動②に中学生5名の参加があり、幅広い年齢層での活動ができた。
- 体験活動③では、対象者を中学校区に広げ、交流の幅を広げることができた。また、中学校へ進学目前の小学6年生を対象にし、交流活動も取り入れたことで、中1ギャップ対策ともなり得るのではないかと。

(2) 課題

- 体験活動②は、潮の関係で夕方の実施となったため、短時間での活動であった。もう少し時間的に余裕のある活動ができればよかった。
- 体験活動③に、スタッフとして中学生の参加を希望したが、学年末テスト前ということでかなわなかった。

4. 地域プラットフォームの展望(今後の方向性・取組等)

- 来年度以降も、公民館事業として事業を継続する予定である。実行委員は、必要に応じて活動に参加・協力していく。
- 体験活動に中学生の参加(活動によっては企画段階からスタッフとしての参加)を呼び掛ける。

5. 団体プロフィール

愛媛県(教育委員会事務局生涯学習課)
〒790-8570 愛媛県松山市一番町四丁目4-2
TEL:089-912-2930(直通)
愛媛県ホームページ: <https://www.pref.ehime.jp/>

体験活動地域プラットフォーム形成支援事業 (地域の自然環境や教育資源を活用した事業)

南予地区体験活動地域プラットフォーム形成支援事業

愛媛県

【事業のポイント】

- 地域の自然や文化に親しむ体験活動プログラムづくり
- 持続可能な体験活動推進の仕組みづくり
- 持続的な青少年体験活動推進の仕組みづくりについての協議
- 子どもを取り巻く地域課題の共有と解決に向けた取組協議
- 体験活動のプログラム開発、企画・運営



喜木川 川遊び

1. 企画

(1) 事業実施の背景

子どもたちが、地域の自然をより深く理解し地域に愛着をもつことができるようにするために「森林わくわく体験」推進事業(県事業・義務教育課)と連携し、「森はともだち」推進事業指定校を含む校区(南予地域1地域)に地域プラットフォームを形成し、指定校の事業内容と関連付けるとともに多様な地域人材等を活かした体験活動を実施する。

(2) わらい

地域を基礎として、学校、社会教育関係団体、行政、地域の団体等を「ネットワーク化」することにより、様々な体験活動を円滑に実施できる「地域プラットフォーム」を形成し、地域での持続可能な体験活動推進の仕組みをつくとともに、地域の自然や文化をより深く理解し、地域に愛着をもつ子どもを育てる。

2. 実施概要

(1) 地域プラットフォームの構成

体験活動地域プラットフォーム形成支援事業実行委員会 実行委員

日土地区公民館長、日土東地区公民館長、日土地区公民館主事、日土東地区公民館主事
日土東地区公民館青少年育成部長、日土小学校長、日土小学校教頭、日土小学校PTA会長
日土町振興協議会長、日土町振興協議会青年部長、日土町青年団長、青藪木炭クラブ代表
地域おこし協力隊、南予教育事務所社会教育課長、南予教育事務所社会教育主事

体験活動地域プラットフォーム形成支援事業実行委員

日土地区公民館長、日土東地区公民館長、日土地区公民館主事、日土東地区公民館主事、日土東地区公民館青少年育成部長、日土小学校長、日土小学校教頭、日土小学校PTA会長、日土町振興協議会長、日土町振興協議会青年部長、日土町青年団長、青藪木炭クラブ代表、地域おこし協力隊、南予教育事務所社会教育課長、南予教育事務所社会教育主事



体験活動閉会式 感想発表会

(2) 具体的な取組の概要

第1回体験活動「日土ふれあい自然塾Ⅰ！～竹で作ろう 川で学ぼう 川で遊ぼう～」



笹飾り作り

講師の指導のもと、1～3年生は七夕笹飾りを、4～6年生は竹、ペットボトルを使ったいかだ作りを実行委員と協力して行った。その後、2班に分かれ、作ったいかだで「川遊び」と講師による「喜木川わくわく自然観察会」を交互に行った。お昼は参加者全員でカレーを食べながら交流を深めた。



喜木川わくわく自然観察会

第2回体験活動「日土ふれあい自然塾Ⅱ！～花炭作りをしよう！～」



炭ができるまでを学習

第2回目の体験活動は、炭窯で炭ができるまでの学習、まきやガスを使った花炭作りを行った。初めに、地元で木炭を作っている方に実物や映像を使って炭ができるまでを説明してもらい、その後、全員が意欲的に花炭作りに取り組んだ。事後アンケートの回答では、参加者の9割以上が炭に興味をもつことができた。昼は、地元の炭でバーベキューをして、参加者同士の交流を深めた。



花炭作り体験

(3)実績スケジュール

月 日	内 容
平成29年6月29日	第1回実行委員会
平成29年7月24日	第2回実行委員会
平成29年8月5日	第1回体験活動(日土小学校・喜木川)
平成29年9月6日	第3回実行委員会
平成29年10月2日	第4回実行委員会
平成30年2月1日	第5回実行委員会
平成30年2月18日	第2回体験活動(JA日土出張所)
平成30年2月18日	第6回実行委員会(体験活動後)

3. 成果と課題

(1) 成果

- 子どもたちが、地域の自然をより深く理解し地域に愛着をもつことができるようにするために「森林わくわく体験」推進事業と連携し、活動を行った。地域の自然や特産品を活用することで参加児童が地域の文化や自然に興味をもち、故郷をもっと知ろうという意欲が高まった。
- 平成26年度に統合した日土小学校区児童と日土東小学校区の児童の交流が深まるとともに、互いの身近な地域の自然のすばらしさを知るよい機会となった。
- 愛媛県環境マイスターの講師に日土町を流れる喜木川の水生生物の詳しい説明を受け、自然環境についての理解を深めるとともに、その保護の大切さにも気づくことができた。
- 地域の団体がこれまでに行っていた活動と、今回、実行委員会で企画した新たな活動を合わせることで、より充実した体験活動となった。幅広い地域の方々や団体と児童の交流も深まった。
- 実行委員会を組織することで、学校、行政、地域の諸団体のつながりが深まり、連携がスムーズにとれ、体験活動を行うための体制が整うとともに、新しいコミュニティの構築にもつながることができた。
- 体験活動を企画・運営することで、体験活動のプログラムを確立することができた。
- 公民館だより、学校だより、南予教育事務所の活動報告書等で広報活動を行い、実施地域での事業の啓発を行った。

(2) 課題

- 初年度しか予算がつかないため、2年目以降は地域で予算の確保をする必要がある。
- 参加者(子ども、実行委員)の負担にならないよう、開催時期・内容・役割分担を工夫していかなくてはならない。
- 活動を多く取り入れたため、準備に時間がかかったり、活動時の時間的な余裕がなくなったりし、児童にも実行委員にも負担が大きくなった。

4. 地域プラットフォームの展望(今後の方向性・取組等)

- 初年度しか予算がつかないため、2年目以降の活動に向けて、「子どもゆめ基金」「愛媛県環境マイスター制度」「愛媛県森林環境保全基金事業」等の助成金制度を紹介し、次年度以降の事業継続を依頼した。
- 体験活動のプログラムを今後も公民館活動、地域諸団体等の活動で生かしていく予定である。
- 日土地区公民館、日土東地区公民館が必要に応じ、協力しながら活動を行っていく。

5. 団体プロフィール

愛媛県(教育委員会事務局生涯学習課)
〒790-8570 愛媛県松山市一番町四丁目4-2
TEL:089-912-2930(直通)
愛媛県ホームページ: <https://www.pref.ehime.jp/>